



東陽病院内科医師

鈴木健士

# 健康ウォッチング

横芝町のみなさんこんにちは。今回は最近よく新聞やテレビで集団感染で話題になっている結核についてお話ししたいと思います。

結核と言えばご心配の方にとっては以前は最も恐ろしい病気であったと思います。昭和初期までは有効な薬もなく、たくさんの命を奪った、現代で言えばガンに近い存在であったと思われます。その後、終戦後の復興あたりを境に国民の栄養状態、衛生状態の改善や有効な抗結核薬が広く普及するに伴い、徐々に結核は治る病気となり死亡率は低下していきました。現在では死亡率は最も多かつた時と比べて百分の一以下まで減っています。ではなぜ今になって再びその結核にかかる方が増え、注目されているのでしょうか。

## 結核について

う機会は大変少なくなつたのです。菌と出会わなければ病気になる率は減るじゃないか、と思われれるかもしれませんが、確かにそうなのですが、実は結核菌といふのは体に入ったからといって必ず病気になるわけではありせん。むしろ9割の方は病気になるのではありません。ですから現在、在高齢の方のほとんどは実はすでに結核菌と出ているのです。しかし、若年層の方は出会う機会がないためその免疫に（菌に対する抵抗力）が不完全なのです。もちろん日本では法律でツベルクリン検査、BCG接種が義務づけられていますが、その免疫効果は残念ながら不完全なものです。つまり結核菌と初めて出会う免疫のない方が多くなつたことが問題なのです。

もう一つには現在日本が迎えるようとして超高齢化社会があります。平均寿命が80歳という世界は過去にどの国も経験したことがありません。高齢者の肺炎は症状が典型的でなく、治りにくいことが多いのですが、その高齢者の多い集団の中でどのような病気がどう広がっていくのか、データが充分でないわけですから、先にお話ししたように高齢の方の多くは結核菌にすでに出会っているのですが、そういう方の一部に症状を出さずに結核菌が潜伏している方がいるのです。その方が他の病気になるにつれて免疫の力が弱くなつた時に、再び結核菌が息を吹き返すことがあります。ですから一度結核を経験した世代にも再び問題となることがあるのです。



しかし、今度の結核の問題の背後に結核菌自体が強力になつたとか、薬が効かなくなつたという変化があるわけではありせん。ですから大慌てすることは無いと思います。しかし、結核を過去のものとせず、充分注意することが必要なのだからと思ひます。



アクセサリーの手入れ

## 大敵は 汗やほこり

アクセサリーをいつまでも美しく保つには、普段の管理が大切です。特に汗をかきやすい季節は、外出後のお手入れが欠かせません。

アクセサリーをはずしたら、やわらかい布でやさしく拭き、表面についたほこりを取ります。宝石によつては、ほこりで傷がついてしまうものもあるのです。細かい細工のすき間は、専用の小さな筆で丁寧にほこりを払いましょう。

汚れが目立ってきたら、アクセサリーの素材に合わせた手入れをします。金や銀、プラチナなど金属類は、毛の柔らかい古歯ブラシに煉り歯磨きか重曹をつけて磨きます。その後ぬるま湯ですすぎ、柔らかい布で水気を拭き取りましょう。細かいチェーンは磨きにくいので、中性洗剤を加えた水に一時間ほどつけ、軽く洗ってから布の間にはさむようにして乾かします。

ダイヤやルビー、サファイヤなど硬質の宝石は、せっけん水につけて古歯ブラシでこすり、細工の隅々まで汚れを落としま

す。後はよく水洗いをして布で水気を拭き取りましょう。

真珠やオパールなどは、傷つきやすく酸に弱いので、汗は大敵です。汚れていないと思つても、使用後は必ず布で拭きま

す。真珠は中に水分が入ると光沢が失われるので、水洗いは厳禁。汚れたときは、少量のオリーブオイルをつけた布で拭き、固い宝石に触れないように、別にしてしましましょう。水晶も傷つきやすいため、せっけん水で洗つて布で水気を拭きます。真珠や水晶のネックレスは時々糸を点検し、弱つていたら取り替へましましょう。

べつこうやサングラス、琥珀は虫がつきやすいので、よくから拭きしてから柔らかい紙に包み、防虫剤と一緒に湿気のない場所で保管します。

